子どもたちの未来のために
9年間の学びと新しい学校

小中学校時代は、「予測困難な社会でも自分らしく生きていくために必要な力」の基礎をつける時期です。子どもたちは、多くの人が自分たちの学びと育ちに関わること、さまざまなことにチャレンジする経験を積むことで、将来自分に必要な力をつけていきます。
その取り組みを、より効果的で充実したものにしていくために、市では、「キャリア教育を軸とした小中一貫教育」と「社会全体で子どもを育てる仕組みづくり」を進めています。
その取り組みを支えるハード面の教育環境として、「９年間で学ぶクラス替えのできる規模の義務教育学校」を整備することを並行して進めていきます。

問い合わせ　学校再編推進室　石川奈美　☎㊸2640

次代を切り拓く力 とは？

1. 主体的にたくましく生き抜くことができる人間力
2. 新たな価値を創造し、よりよい将来を創り出すことができる力

目指すは
次代を切り拓く力
を育む教育環境

義務教育学校開校

設計・建設

開校４年前～
開校準備
校名、校章、PTA組織などを検討。

中学生が小学生にオンラインで中学校を紹介（小中連携事業）

研究終了後～
分離型小中一貫教育の推進
学校施設は離れた状態であっても、９年間で子どもを育む教育を実施する。
牧之原小・中学校は、隣接する利点を活かし、小中一貫校を意識した教育を行う。

R２年度～
小中一貫教育の研究
各中学校区で、小中一貫を目指した研究を実施中。中学校区の育みたい子ども像を共有し、９年間の学びと育ちをつなぐ取り組みを考え、試行。

R元年度～
９年間のカリキュラム作成
９年間の系統立てた学びを推進するために、各教科のカリキュラムを作成。令和５年度までに全教科作成予定。

R４年度～
起郷家教育３
テーマ「仕事と価値創造」（中学生）
将来働くときに必要な力を、職業体験や起業体験を通して身につける。
テーマ「命と防災」（小中学生）
現在プログラム作成中。

R２年度～
起郷家教育２
「地域の再発見」がテーマの「アースランチプロジェクト」（小学生）
地域の資源を再発見し、料理の考案・創作・プレゼンテーションを通して、創造的思考を高める取り組み。静岡大学と協働で実施。

R元年度～
牧之原市版キャリア教育「起郷家（きごうか）教育」（郷に学び、将来を見通し、自ら行動を起こす人を育む教育）１
①９年間の力の系統図作成
②教育プログラム検討

開校４年前～
新しい学校のコミュニティ・スクールの形
コミュニティ・スクールの学校運営協議会を中心に新しい義務教育学校のコミュニティ・スクールについて検討予定。

R４年度～
中学校区で連携
中学校区の学校のコミュニティ・スクール同士の交流や連携事業を実施。

R元年度～
コミュニティ・スクールの設置
令和元年、モデル校３校にコミュニティ・スクールを設置するとともに、教職員とコミュニティ・スクールを研究。令和３年度に全校にコミュニティ・スクールが設置された。

R４年度～
新しい学校づくり検討
令和４・５年度に榛原地域・相良地域の新しい義務教育学校の施設について検討。
検討は、専門家、保護者、教職員、自治会、CSD、企業の代表で構成された委員で行うが、アンケートやワークショップなどで多くの人の意見を聞きながら進める。

＊CSD＝コミュニティ・スクール・ディレクター

R３年度
学校再編計画の策定
2030年度を開校目標に、榛原地域に１つ、相良地域に１つの義務教育学校（小中一貫校）を設置することを決定。
５つの方針とソフト・ハードの内容を計画に盛り込んでいる。

R元年度～
学校再編計画（素案）の作成
専門家、保護者、教職員、自治会代表、公募の市民からなる審議会で検討。地域でのワークショップや小中学生・保護者を対象としたアンケートなどで多様な意見を集約し、まとめた。

小中一貫教育
９年間の系統的・連続的な教育。９年間の学びのカリキュラムの作成や中学校区での一貫教育を研究・推進する。

キャリア教育
新しい学校のプログラムへの接続を意識し、全小中学校で実施する教育プログラムを作成する。

コミュニティ・スクール
もっと学校と地域が近くなり、同じ目的のもと、学校の運営に地域の人も関わり、活動を通して子どもを一緒に育む仕組みをつくる。

学校再編
９年間の教育を支える土台として、ハード面の教育環境を整備する。

スタート

望ましい教育環境のあり方に関する方針（H29～30年度検討、H31年３月策定）

[教育内容]
- ▶目標「次代を切り拓く力の育成」
- ▶キャリア教育の推進
- ▶小中一貫教育の推進
- ▶コミュニティ・スクール

[教育環境]
- ▶クラス替えができる規模の小中一貫校をつくる

新しい義務教育学校の候補地が決まりました

令和４年８月から学校用地候補地選定委員会で検討をしていた新しい学校の候補地が、12月15日の教育委員会において決定しました。これからの新しい学校施設の検討は、この候補地を基本に考えていきます。

榛原地域の候補地

榛原中学校および周辺

［付帯意見］ ▶必要な調査や被害想定をして、建築計画や造成計画に反映させること▶工事の際に中学校の教育活動を妨げないこと

2030（令和13）年開校予定

▶各区からの中央にあるためアクセスしやすい▶教育活動がしやすい▶十分な広さがある▶費用を抑えることができる▶河川浸水想定区域内だが、過去に後者への浸水被害がなく、建築計画や学校運用を工夫することで、安全・安心な施設にできる▶現在の中学校の教育活動をしながらの建設が可能

相良地域の候補地

大沢インター北側周辺

［付帯意見］ ▶農地調整の関係で開校時期が遅れる見込みだが、さまざまな調整や工夫をして早期開校できるようにすること

2033（令和15）年開校予定

▶市街地の近接地で、周囲に公共施設や商店、山や畑があり、幅広い教育活動がしやすい▶候補地の中で最も平場面積が広い▶候補地の中で最も建設費が抑えられる▶大沢インターチェンジが近いため、アクセスが良く、利便性が良い

新しい学校をみんなの思いがあふれる学校に

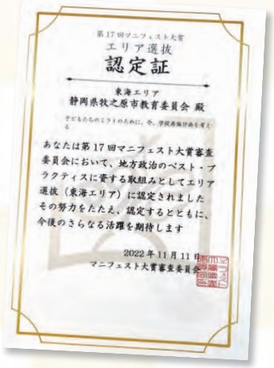
◀地頭方小学校での出前授業

子どもワークショップ▶

新しい学校づくり検討会の他、子どもたちを対象にワークショップを開催したり、小中学校で新しい学校のデザインを考える授業を行ったりしています。今後は、保護者や地域の皆さんの意見を聞く機会も作り、多くの人が「通いたい・通わせたい」と思う学校にしていきます。

学校再編の取り組みが「マニフェスト大賞2022」東海エリア選抜に認定

学校再編計画の検討は、自治基本条例や市民参加条例に基づき、「望ましい教育環境のあり方の検討」から６年の歳月をかけ、審議会や意見交換会、アンケート、説明会などさまざまな方法で市民意見を集約して進めてきました。そのプロセスが認められ、「マニフェスト大賞2022」への応募総数3,133件のうち、東海エリア選抜31件の1つに選ばれました。



第17回マニフェスト大賞
エリア選抜
認定証
東海エリア
静岡県牧之原市教育委員会 殿
子どもたちのミライのために、市、学校再編計画を考える
あなたは第17回マニフェスト大賞審査委員会において、地方政治のベスト・プラクティスに資する取組みとしてエリア選抜（東海エリア）に認定されました
その努力をたたえ、認定するとともに、今後のさらなる活躍を期待します
2022年11月11日
マニフェスト大賞審査委員会

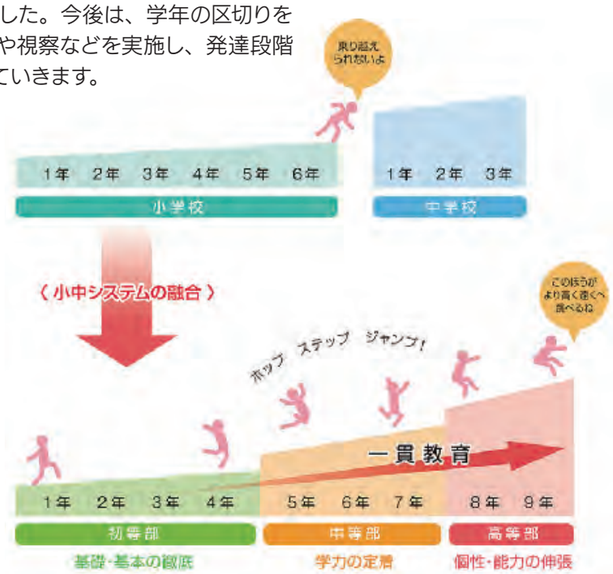
新しい義務教育学校の学年の区切りは 4・3・2 制

現在は、小学校６年間、中学校３年間を区切りとしていますが、新しい学校では、９年間で子どもを育みます。子どもたちにとってどこに節目をつけることがよいのか、市校長会で検討し、令和４年７月15日に、節目とする学年の区切りが市教育委員会に提案されました。今後は、学年の区切りを「４・３・２制」とすることを前提に、研修会や視察などを実施し、発達段階に応じた資質・能力の育成について研究をしていきます。

市校長会の提案内容

1　子どもの発達段階や年齢の特性に応じた意図的な教育活動を行うため「４・３・２制」を基本とする。
ただし、子どもの実態・教育活動の内容に応じ、弾力的運用も可能とする。

2　義務教育学校により９年間を通して子どもを育てていくという教職員の意識改革が何より重要であり、教職員一人一人が、施設整備も含め「今までにない全く新しい学校を作る」という意識を常に持つことができるようにする。



出典：京都教育大学付属京都義務教育学校ホームページ

コミュニティ・スクールの連携が始まりました

令和３年度に全校設置したコミュニティ・スクールでは、学校が目指していることを地域の人たちと共有し、一緒に考え、人をつなげてくれています。また、授業の支援や校外活動の見守りなど、子どもたちに直接関わる活動をしてくれています。本年度からは、中学校区の他の学校と交流をしながら、中学校区で学びと育ちを考えています。

◀中学校区のCSDの意見交換

ボランティアからミシンの使い方を学ぶ▶

キャリア教育の取り組みが「文部科学大臣表彰」受賞

本市の「起郷家教育」の取り組みが、キャリア教育の充実・発展に関し顕著な功績が認められる教育委員会などに送られる「文部科学大臣表彰」を受賞しました。
これからも、子どもたちにとってより良い学びが提供できるよう、取り組みを進めていきます。

▲授賞式の様子

アースランチフェスティバル▶